

金丸・朝まち・沿町

# あさがおち 通志

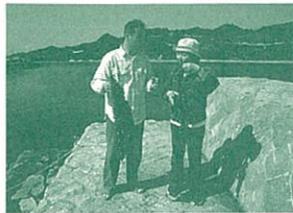
町並み保存地区みらい情報誌

三宝山 大東寺



御手洗 重伝建を考える会





千砂子波止ではワカメもとれる



御手洗ボランティアガイドの皆さん(天満宮にて)

#### ■表紙の写真

#### 御手洗の三世代家族 その①

御手洗の関藤さんご一家は、代々大東寺のご住職のお宅。写真は左から静子さん(68歳)、双子の瑞生ちゃん(1歳)、ご住職の静雄さん(67歳)、長男暁生ちゃん(3歳)、副住職で豊町役場にお勤めの一暁さん(35歳)、双子の寛生ちゃん(1歳)に直子さん(29歳)。おじいちゃん、おばあちゃんに双子を含め子ども3人、ご両親は共働き。ケンカをしてはいつの間にかまた笑っている、ワンパク盛りの子供さんに毎日振り回されっぱなしとか。それでも家族5人、仲良く賑やかに一緒に暮らしておられます。



大東寺にて関藤さんご一家 (撮影:長濱要悟)

# みたぐ・通信

1998・8 NO.3

目次

- |                  |   |
|------------------|---|
| 御手洗ものがたり③        | 2 |
| 北前船              | 2 |
| 私の中の御手洗③         | 3 |
| 御手洗賛歌～我が人生はまだ途中～ | 3 |
| 名勝八景             | 5 |
| 御手洗ボランティアガイドの紹介  |   |
| 私たちが案内します！       | 7 |
| みたらいなんでも伝言板      | 9 |



御手洗の路地にやってくる  
今治の魚屋さんはいつも  
主婦たちで賑わう

# 北前船

東征する神武天皇がちょうど瀬戸内海の中程で地元の神に「汝は、海つ道を知れりや」と問うたところ、「よく知れり」とこたえていたことが『古事記』に載っていることからみても、瀬戸内海は古くから物流の主要な路線であった。この路線に北前船が本格的に活動するのは一六七二年河村瑞賢によって西廻り航路が開発、安定してからである。

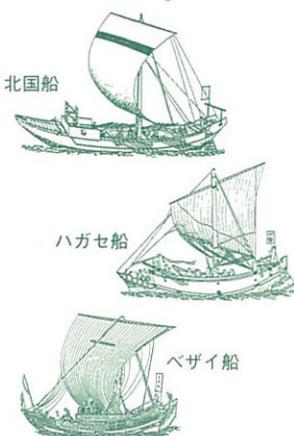
北前船の特徴はその商売の法である。それはこの船が運賃を稼ぐだけの船ではなく船主が荷主などということである。つまり船主が自分の荷物を大阪と蝦夷地の間の各港で売買しながらまわる買積船で、動く商社だったのである。

この性格に対応したのが御手洗の商人たちである。苦心懃憺して正銀を搔き集め、米・雑穀類はもとより、酒・干鰯・たばこ・素麺・ろうそく・薬・鰹節・砂糖・呉服・藍玉・油・炭・お茶・塩など多種多様なものを買い込んで、近郊近在の島々に転売し利益を得たのである。

御手洗の俗謡に

広路（こうじ） 広路が  
十広路（登光寺） 小路（じょうじ） 小路が  
万小路（満舟寺） 沖に風呂屋が二千軒

とあり、この風呂屋は寄港する船のマストを風呂屋の煙突に見立てたもので、「風呂が沸いたけえ入りに上つてつかあさい」と船乗りたちに呼び掛けた茶屋の多さと寄港している船の多さを示している。



牧野隆信著  
「北前船とそのふる里」より



秋光寬二

(63歲)

18歳まで御手洗に暮らし、以後は関西で服飾業界一筋に歩む。現在は宝塚市に在住。現在も年に1～2度は帰郷。生家は住吉神社前の呉服の仕立て屋さん。



御手洗袂歌

私の中の御手洗③



昭和二十九年春、私は希望と後援を引かれる一抹の感傷にひたりながら、我が故郷の山河と友に別れを告げた。さてそれから四十余年。時は走馬灯の如く確実に過ぎ去つたのである。この度、原稿依頼の栄を得たこの機会に同郷の諸兄姉に対し我が前半人生のドラマを報告する「我儘」をお許し頂きたいと思います。

昭和二十九年春、私は希望と後髪を引かれる一抹の感傷にひたりながら、さてそれから四十余年。時は走馬灯我が故郷の山河と友に別れを告げた。

（阪神間で六千余人の犠牲者が出了た）  
我が店と阪急西宮北口駅前商店街は  
平成七年一月十七日阪神大震災発生！  
90%が倒壊した。

被災後の煙の立つ町中で自衛隊と共に倒壊家屋からの被災者救助と「市の救援隊」に参加して避難所への食糧運搬のボランティア活動は、三年を経過した現在では懐かしさと共に人生観を変えざるをえない程の大事件ではあった。

式会社に職を得て二十年間、大阪支社長の職責を担つていた頃、会社幹部の経営権闘争が発生し立場を明確にせざるを得なくなつた私は、新会社設立に参加(専務取締役)したが、元会社との競争に敗れ数年で倒産、その後元会社も戦後の大型倒産としてマスコミを賑わした。(昨年来のファッショント界の大物、君島一郎没後)の骨肉の争いに似ている)。当然ながら会社解散の困難を経験して

三  
然ながら、名物鮭の販賣を駄馬  
て、その後昭和五六年秋「婦人服飾  
Akaya」(Akayaは祖父の  
店の屋号)を開店、十五年を経過し  
て3店舗に拡大して阪神間では少し  
は有名なブティックに成長した。

西宮北口駅前の二十階建・三十階建の再開発工事も始まつた。当ビル内にオーブンする三年先をめざして、従業員數十名と共に明るく元気に邁進している現在を報告出来る事が、何よりも嬉しい事であります。

町並が少しづつ落ち着きを見せ始めた頃、「Akaya」は消費者「一  
ズに合わせて、洋服リフォームと、  
コンピューター仕上げの洋服イメージ  
一オーダー会社「ソーリング工房A  
k a y a」として再生した。

西宮北口駅前の二十階建・三十階建「カヤ」において、アカヤは消費層ニ一  
町並が少しずつ落ち着きを見せ始めた頃、「Akaya」は消費者ニ一  
ズに合わせて、洋服リフォームと、  
コンピューター仕上げの洋服イージ  
ーオーダー会社「ソーリング工房 A  
k a y a」として再生した。

の再開発工事も始まつた。当ビル内にオーブンする三年先をめざして、従業員數十名と共に明るく元気に邁進している現在を報告出来る事が、何よりも嬉しい事であります。

既述の如く、少し忙し過ぎた前半人生ではあるが、「弱気になつた時」又「増長が芽生えた時」等、常に私を励まし戒めてくれたのは「ヤグラ



## 御手洗の魚屋さん

豊町にある船はそのほとんどがみかんを出作するための農船。そのため今治からトラックでやってくる魚屋さんはいつも買い物客で賑わう。主婦たちが魚をあれこれ選んだり、おしゃべりしたり。今やすっかり町の風景に溶け込んでいる。

音頭」の響く「御手洗魂」と大自然との調和を教えてくれる我が故郷の山河（ナガメ、波止、住吉神社、ガシゲ、大東寺、ケボ、観音崎、天満宮、一峰寺山、波の音 etc）と幼年期に通つた大東寺の日曜学校を原点とする淨土真宗（領解文、歎異抄）の教えであったと思う。嬉しい時、悲しい時、人生の山谷を越える毎に思い起こす御手洗を故郷に持つ私は幸福者であると感謝に絶えません。

今後は気力と体力の続く七五歳迄は現役で働き、その後は御手洗に帰つてAkayaの社員の保養所も兼ねた晴耕雨読の気楽な民宿をやつて熟年を楽しみたいと思う。

同郷の皆さん、来阪の際には、ぜひ立ち寄つて下さい。「灘の生一本」で御手洗を語りたいと思います。この冊子が今後共、外海に出ている我々御手洗出身者の「帰巣本能」を満たしてくれる「糸」となってくれる事を念願しながら、筆を止めます。ありがとうございます。

# 名勝八景

一八〇八年（文化五年）  
国郡志書出帳より

## 満舟晚鐘

古寺の鐘のひ、きを江の村へはるかに告る夕暮のかせ

## 湊町泊舟

うかれめにこゝろひかれて泊り舟たゑまも波の湊ニそよる

## 大浦落雁

秋毎にむれいる雁ハ大浦や芦邊ヲさして落る聲／＼

## 大長夜雨

名ニふりし所ならねと雨の音ハよそにそまさる夜半のしつけさ

## 仲嶋松風

仲嶋や寄せてハかへる波の音代松のあらしにたへてこそさく

## 江浦秋月

もろこしの秋の詠めハさもあらはあれ月そ所をこゝに江の浦

## 牛崎晴雪

雪ふれハ詠そ深き牛崎に心ひかれぬ人ハあらしな

## 關前行舟

をいてそと真帆引つれて朝またき漕行舟の數そ見へける

## 俳句・和歌大募集!

みなさまからの俳句・和歌を常時募集しています。

豊町に限らずテーマは自由。

たくさんの投稿お待ちしております。

■宛先

〒734-0302 広島県豊田郡豊町御手洗  
「重伝建を考える会」今崎仙也  
「みたらい句集」係

御手洗港に停泊する北前船。

海上交通が全盛だった江戸へ明治にかけて航路の重要な中継地であった御手洗も潮待ちの港として繁栄をきわめた。一步踏地に入ると今もなお当時の町並みや風景がひっそりとたたずんでいる。

## 御手洗ボランティアガイドの紹介



坂田輝明 (71歳)

御手洗出身だけど、現在呉と御手洗を行き来しながら、日々の生活。御手洗の魅力は歴史の古いところ。が好きな場所は「歴史のみえる丘公園」で、1日1回は登っています。歴史に興味のある方には、興味深く見ていただけるところがたくさんあると思う。



長濱要悟 (50歳)

御手洗出身で、学生時代を含め16年間東京で暮らした。お客様には江戸時代の港町としての御手洗を見て、感じて欲しい。ガイドをしていて楽しいのは、お客様がよく理解してくれた時。自分の知らないことを、お客様から教えていただくのも嬉しい。趣味は弓道。



今崎仙也 (62歳)

郵便局長時代によそから来られたお客様を案内するうち、逆にお客様から御手洗の歴史的なことを教えていただき、それが歴史に興味を持つきっかけに。たくさんの方に御手洗の歴史を見ていただき、文化を見てもらいたい。また風光明媚なところも見て欲しい。



多武保裕美 (43歳)

広島市出身、結婚で大長に来て10年。職業は農業、趣味はお琴と俳句。御手洗の建物を見て、興味はあったけど全く何も知らなかつたので、歴史がわかつたら面白いだろうなと思い養成講座に。町並みの他にもみかん、海、農道からの風景などいい物がたくさんある。



木村吉聰 (84歳)

御手洗に生まれ育ち、昭和27年頃から本格的に郷土史の研究を始め、ずっと続けてきた。大東寺の欄間とか住吉神社、満舟寺の構堂の墓とか、ぜひ見ていただきたいところ。今は満舟寺にある額が沖縄の国王にゆかりのあるもので、その研究に頑張っています。



越智 元 (58歳)

御手洗に生まれ育ち、燃料店をやっている。ボランティアガイドの講座はいろんな人に出会えると思って受講した。御手洗の素晴らしいところは町並み全体。特に好きな季節は夏。海がいい季節だし、お祭りもある。たくさん的人に御手洗の夏を知ってもらいたい。

## ボランティアガイドについて

島外から来られたお客様に、少しでも御手洗の歴史や町に受け継がれてきた文化を知っていたい。それは御手洗に暮らす人々の願いです。そのお手伝いをする、ボランティアガイドが14名います。御手洗出身者や結婚を機にこの島に来たという

人、みんな自分の住む島の歴史をもつと知りたいという好奇心で「ボランティア養成講座」を1年間にわたり受講し、和気あいあいと勉強を楽しみました。御手洗のボランティアガイドは全国版の「観光ボランティアガイド名鑑」にも登録されています。



高灯籠の前で

# 私たちが案内します！



片山七恵（49歳）

御手洗に生まれ育ちながら、御手洗を知らないのは恥ずかしい。もっと御手洗を良くしたいと、講座に参加。好きな場所は高灯籠だったが、7年前の台風で昔の面影がなくなったのが残念。趣味はビデオ鑑賞、特に洋画が好き。職業は団体職員。



尾藤妙子（47歳）

御手洗出身、結婚後8年間広島市内に暮らし、御手洗に戻って17年。御手洗に生まれ育ちながら、歴史を知らないので、ちょっと勉強してみたいなという軽い興味で養成講座に。行ってみると和気あいあいで楽しい1年間だった。興味深かったのは北川邸。



堀口真紀恵（46歳）

御手洗出身。主婦、趣味は旅行。5年前に行ったニュージーランドが一番の思い出。ボランティアガイドの講座を受講したのは、やっぱり御手洗が好きだから。生まれ育った所だけど、知らないことがいっぱいあって、もっと知りたいと思ったから。



廿日出清子（40歳）

広島市で生まれ、結婚で大長へ来て12年。主婦、みかんの手伝いも。もともとは歴史音痴ですが、豊町に来て町並みを見ているうちに、この町に根付いた文化をもっと知りたいと思うようになって、ボランティアガイドの養成講座に。趣味は歌を唄うこと。



橋本弘二（61歳）

学生時代は島外で過ごしたが、ずっと御手洗在住。せっかく重伝建に指定され、それでよそから人が興味を持って島に来ていただけるようになったことを大切にしたい。歴史の古さが生きている町、御手洗の良さが少しでもみなさんに伝わることを願っている。



長濱博子（49歳）

東京都世田谷区で生まれ育ち、結婚後3年目で御手洗に。自然散策が趣味。お客様にはまず重伝建の町並みを見ていただきたいが、できれば四季折々の御手洗を見ていただきたい。空気も海の色も空も、季節で全部違う。何度も足を運んでもらいたい。



金子悦子（48歳）

千葉で育ち結婚後、大長に。友達が来た時など、もう少し詳しくガイドできたらいいなと思ったのが受講のきっかけ。講座はたいへん楽しかった。御手洗は古い町並みが残っていて、そこに人々の暮らしが静かに続けられているということが素晴らしいと思う。



下鍛冶智恵子（65歳）

御手洗出身で、御手洗から出て暮らし始めたことはない。けれど今まで建築業の事務という仕事ばかりしていたので、歴史的なこと全く知らなかった。夫が歴史に興味があるので、私が講座に通うようになって、新しい共通の話題ができたのも嬉しい。



# みたらしやくも伝言板



モニュメント（手前）  
と案内板



ベーカリーカフェ  
「みかんの木」

- 営業時間／AM9:00～PM6:00
- 定休日／水曜日
- ☎ 08466-6-3790

この夏、小長港にオープンしたパン工房。店長を務めるのは坂井志保さん（24歳）。島外で学生生活、国民休暇村で調理の仕事を経験した後、「小さい頃からパンかケーキ屋さんがやりたかった」という夢が叶い、この度ふる里に戻ってきた。



店長の坂井さん

みなさんで  
お気軽  
に  
ご利用  
ください

【取材協力】浜口さゆりさん  
(御手洗在住25年)

小長港フェリーターミナルの2階にベーカリーカフェ「みかんの木」がオープンしました。また、案内板とモニュメントも完成。案内板は富山でブロンズ作家として活躍されている奈留雅昭さんが、モニュメントは「風の門」をテーマにステンドグラス作家の宮田洋子さんが石の彫刻家・石丸勝三さんの協力を得て制作されたものです。



小長港フェリーターミナル。  
1階はチケット売場。

## 小長港にパン工房オープン

今年10月には中の瀬戸大橋・平羅橋・岡村大橋がともに開通予定。6月には中の瀬戸大橋の橋たがつながったことを記念して豊小学校、豊中学校の生徒が橋の床板に絵を描き話題を呼びました。橋が開通すれば愛媛県関前村とも豊町が約8分で結ばれることになり、小長港周辺が豊町の新しい憩の場として活躍しそうです。

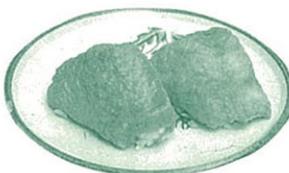


おいしい  
けいわ

入船食堂の名物  
いなり寿司と  
店主の片山カメさん

## いなり寿司

御手洗の味じまん③



潮待ち港があり、古くから多くの遠来の客をもてなしてきたこの島には、自慢の味がある。祭りや盆、正月、お客様をもてなす時に家庭で作られるお寿司がそれだ。今回は特にいなり寿司をご紹介しよう。島のいなり寿司は具だくさんである。おおよそ具は油あげ、にんじん、しいたけ、ごぼう、むきエビ（自家でむいて冷凍してある）など。油あげも町内の豆腐店で作られている島の味。豊町のいなり寿司は、これでなくてはいけない。この味、御手洗では「入船食堂」で1個80円で食べられる。

■ 材料と分量（米一升に対応して）

具…油あげ（1枚）、にんじん（一本）、しいたけ（4～5枚）、ごぼう（1本）、むきエビ（150g）、あわせ酢：酢1C、砂糖180g、塩30g、酒少々。あわせ酢は一度沸騰させ冷ましたのを使う。



# 見たい！知りたい！伝えたい！

## 御手洗の歴史 に触れる旅



中国新聞  
98.6.13付

開催日・8月23日(日)  
料金・大人 7800円

小人 4800円

(乗船代+昼食代+平山郁夫美術館入館料)

申し込み・瀬戸内海汽船株

☎ 082-255-3344



ここでもボランティアガイドは大活躍(七脚落遺跡にて)



### 重伝建からのお知らせ

## 曲三町が 3部門で入選!!

## 島外会員 募集!

「重伝建を考える会」では現在島外で生活をされている豊町出身者

を会員として募集しています。会

NHK広島放送局開局70周年を記念して広島県全体で行われた「広島十景」を選ぶアンケートの結果、段々烟の大長みかん、大長の農船、御手洗の町並が“食・海・街”的ぞの部門で入選しました。

豊町に残る美しい風景や町並を後世に伝えられるよう守つていきたいものです。

「重伝建を考える会」今崎まで。  
「重伝建を考える会」今崎まで。  
「重伝建を考える会」今崎まで。

「なんでも伝言板」では皆様のお便りを募集しています。

●御手洗の思い出・昔話・最新情報  
●隠れた名所・おもしろスポット

このほか、みたらい通信の感想など、どしどしお寄せください。本誌で紹介させていただいた方にはもなく記念品を差し上げます。お便りお待ちしています。  
宛先／〒734-0302  
広島県豊田郡豊町御手洗

「重伝建を考える会」今崎仙也  
「みたらい通信」なんでも伝言板係

### これから行事予定

#### ●第10回みかんの島で弓祭

9月6日(日)

問い合わせ／豊町産業課

☎ 08466-6-2131

#### ●大長の櫓祭 9月26日(土)

問い合わせ／豊町産業課

☎ 08466-6-2131

#### ■編集室より

「みたらい通信」は今号まで御手洗にこだわってまいりましたが、次号から御手洗だけではなく豊町全体の情報も発信していきたいと思っています。それは「みたらい通信」が豊町観光を視座に据え、そのための情報誌であることを目指すことを意味します。しかしながら「みたらい通信」という名前は変えません。御手洗が豊町観光の自玉商品であることに何かの変化もないからです。

(長濱)

大

喜ぶ

集



●土地・建物のご用命は●

# マルヤ不動産

代表者：丸谷昭彦

〒735-0007 広島県安芸郡府中町石井城2-17-31

☎082・282・5441



## MITARAI since 1666



- 寛文6年（1666）町屋敷割りを藩より許され、  
人が建ちはじめる  
正徳3年（1713）町年寄り（大長村の統轄下）が置かれる  
宝暦9年（1759）常盤町を中心とした大火（11月）  
文化3年（1806）伊能忠敬が御手洗を測量した  
(3月1～3日)  
5年（1808）町庄屋が独自に置かれる（初代柴屋）  
文政9年（1826）シーボルトが寄港する  
11年（1828）千砂子波止の築造（11～12年）  
11～13年 住吉神社造営（大坂 鴻池善右衛門寄進）  
(1828～30) ※千砂子波止の築造以後、  
住吉町の理立てが進んだ  
嘉永6年（1853）吉田松蔭が長崎行きの途中に立ち寄る  
元治1年（1864）三条実美ら五卿が多田勘右衛門宅  
(竹原屋)に奇遇する（7月22日～24日）  
明治12年（1879）御手洗町が大長村より独立  
昭和31年（1956）1町2村合併して豊町となる  
平成6年（1994）国選定 重要伝統的建造物群保存地区  
となる

## ●御手洗までの交通●



- 広島から大長まで…高速艇で約1時間30分
- 呉から大長まで…高速艇で約1時間
- 仁方から大長まで…高速艇で約40分
- 竹原から大長まで…高速艇で約40分
- 三原から大長まで…高速艇で約60分
- 今治から大長まで…高速艇で約30分
- 大長から御手洗まで…徒歩で約15分

“いろんな人に  
読んで欲しい！”

「みたいい通信」を友人、知人または豊町出身者に配りたい！  
等で本誌が余分に必要な方は左記奥付住所の「重伝建を考える会」  
今崎までお問い合わせください

この情報誌は  
再生紙を使用  
しています。